

かつしかごみ減量リサイクル推進協議会 第14回事業者活動部会

(開催日：平成26年1月24日)

第14回事業者活動部会では、平成25年度のごみ処理の現状を分析し、課題抽出を行いました。そのうえで、平成25年度の取り組みとして、「ごみ減量月間の実施」、「かつしかルール」、「ごみ減量の日」についての検討を行ないました。

そして、今回の検討結果については2月5日に開催される推進協議会で提案していくことが確認しました。

1 葛飾区のごみ処理の現状

(1) 葛飾区のごみ減量目標値と実績

葛飾区では、平成32年度までのごみの減量目標として、「家庭ごみ」「事業系ごみ」「ごみと資源の総量」の3つの項目に達成すべき目標値を設けて計画を策定しています。

【12月末までのごみ量比較】

	H24.12 末 まで実績	H25.12 末 まで実績	減少量	前年比
燃やすごみ	63,076 t	61,793 t	-1,283 t	98.0%
燃やさないごみ	2,985 t	2,787 t	-198 t	93.4%
粗大ごみ	2,370 t	2,200 t	-170 t	92.8%
計	68,431 t	66,780 t	-1,651 t	97.6%

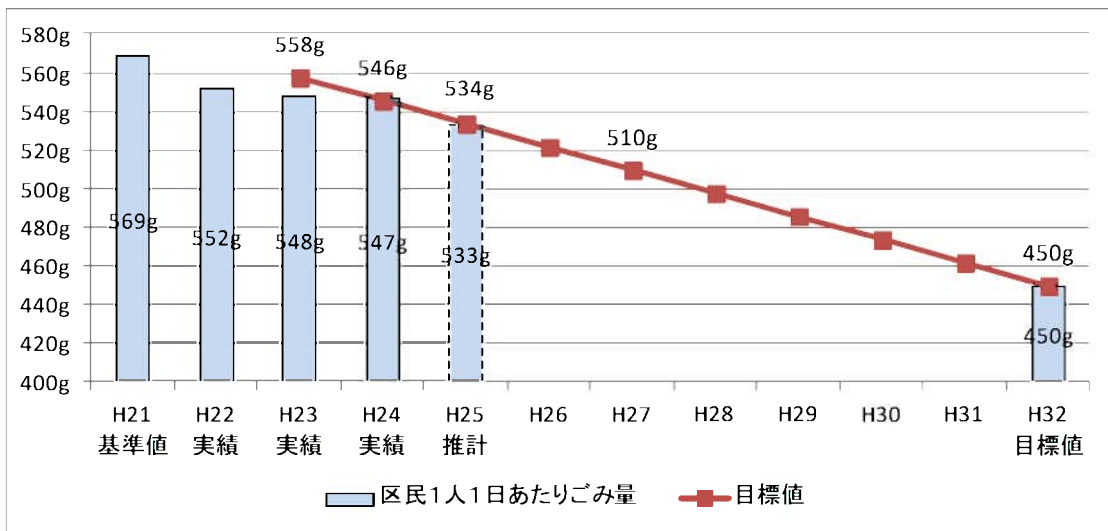
12月末現在のごみ量を比較すると、24年度に比べ25年度は1,651 t (2.4%) の減量となります。

○目標1

平成32年度までに区民1人1日あたりの家庭ごみ量を約20%(120g)削減します。

区民1人1日あたりの家庭ごみ量は減少傾向です。25年度は昨年度に比べ14gの減少で、目標の534gに比べ533gと1g減となる見込みです。

【区民1人1日あたりの家庭ごみ量】

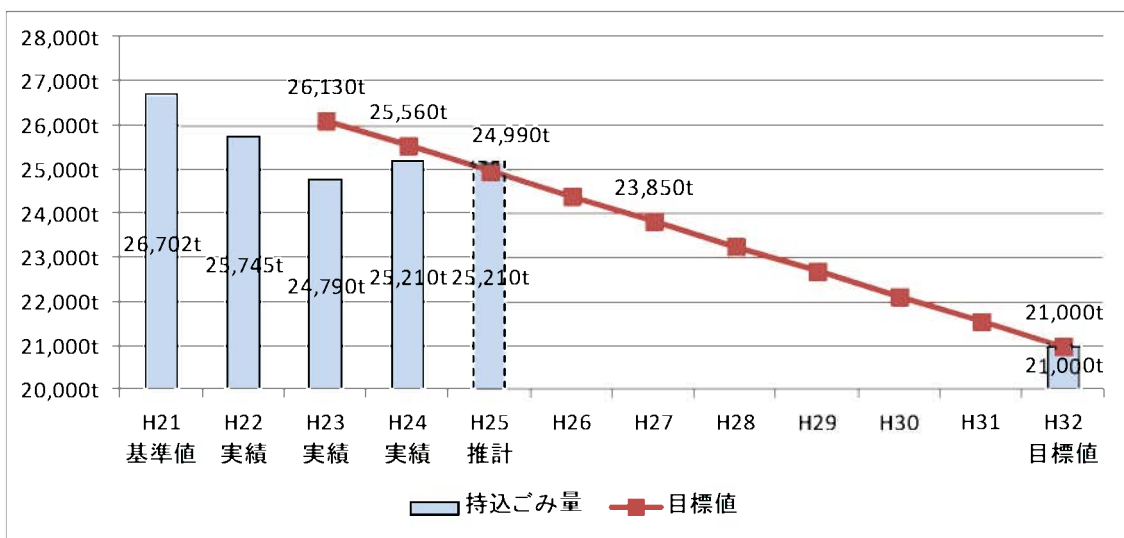


○目標2

平成32年度までに事業系ごみの年間総排出量を約20%(5,700t)削減します

事業系ごみ年間総排出量はしばらく減少傾向でしたが、24年度は一転して増加しました。25年度の事業系ごみ量はまだ未確定であるため、昨年度と同量としています。

【事業系ごみ年間総排出量】

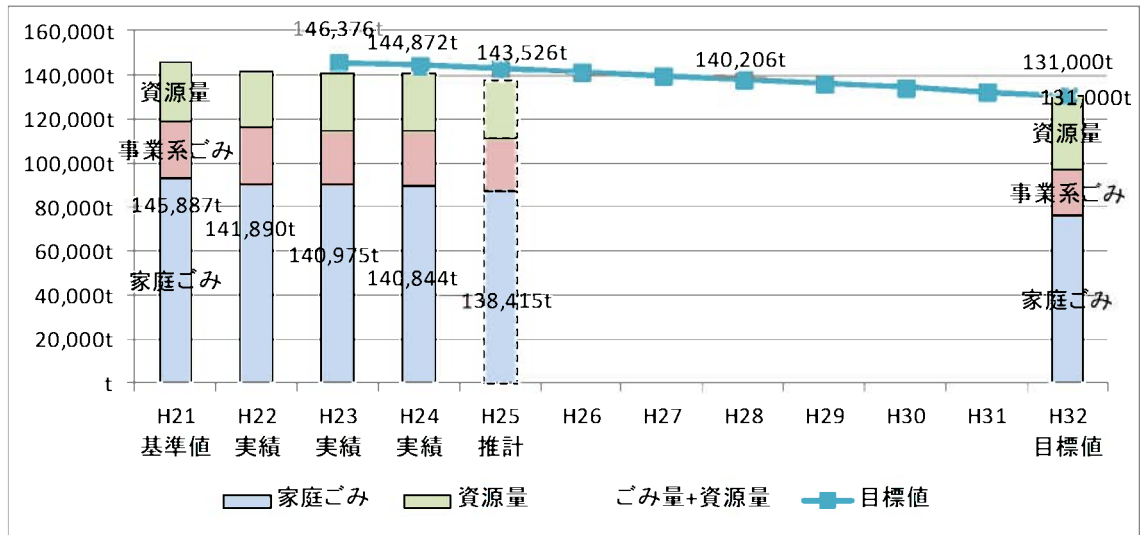


○目標3

平成32年度までにごみと資源の年間総排出量を約10%(15,000t)削減します。

25年度の事業系ごみ量はまだ未確定であるため、昨年度と同量としています。24年度まで年間総排出量は目標値を下回っています。

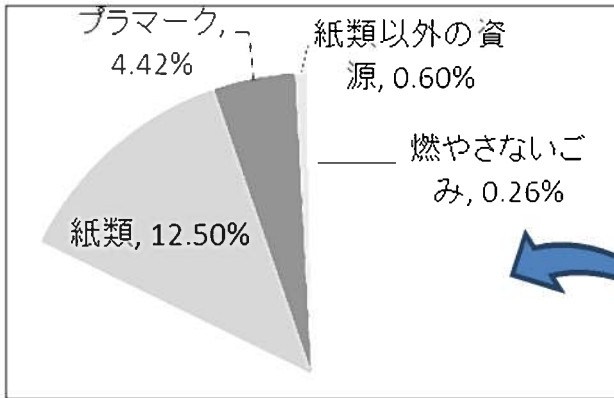
【ごみと資源の年間排出量】



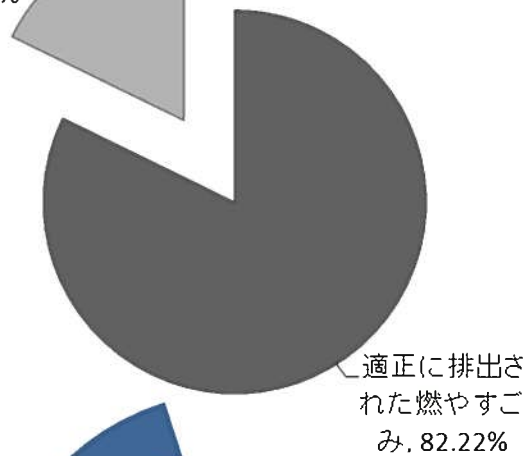
(2) 燃やすごみの排出状況～葛飾区ごみ性状調査より～

昨年度実施した「葛飾区ごみ性状調査」では、燃やすごみに含まれる資源や燃やさないごみの割合は17.78%、うち紙ごみとプラマークが大きな割合を占めることが分かりました。一方、適正に排出された燃やすごみの多くを生ごみが占めています。

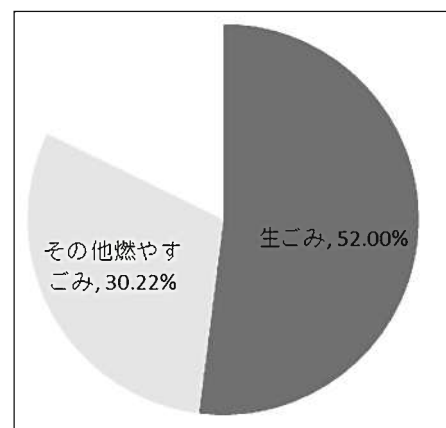
燃やすごみに含まれる資源・燃やさないごみ



燃やすごみに含まれる資源・燃やさないごみ, 17.78%



適正に排出された燃やすごみ



(3) 各種調査にみる区民の意識

ごみ減量キャンペーンでの街頭アンケート結果

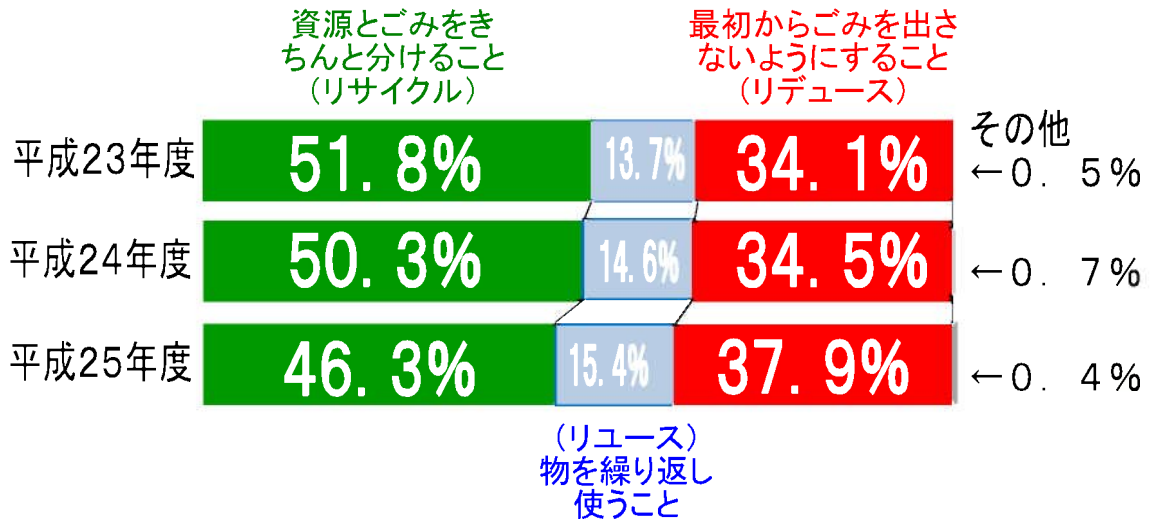
「ごみの発生抑制」意識の浸透状況について（有効回答者数 2,283）

問1 ごみを減らすために一番大切なことはどれだと思いますか。
いずれか1つに○をつけてください。

- 1. 資源とごみをきちんと分けること (1,056件) 46.3%
- 2. 物を繰り返し使うこと (352件) 15.4%
- 3. 最初からごみを出さないようにすること (867件) 37.9%
- 4. その他 (8件) 0.4%

(その他の意見)

マイバッグを使っている、不要なものは買わない 等

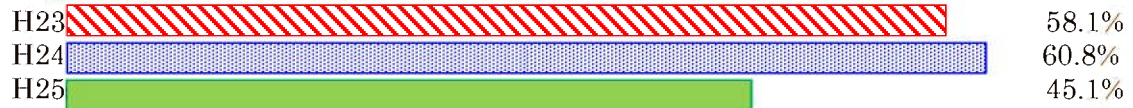


ごみの減量に一番大切な発生抑制である「最初からごみを出さないようにすること（リデュース）」と次に大切な再使用である「物を繰り返し使うこと（リユース）」の割合が若干ではあるが、年々増加している。また、「資源とごみをきちんと分けること（リサイクル）」の割合は昨年より減っているものの、3つのRの中で最も高い割合を維持している。この3年間で少しずつではあるがリサイクルからリユース、リデュースの方向にシフトしている。

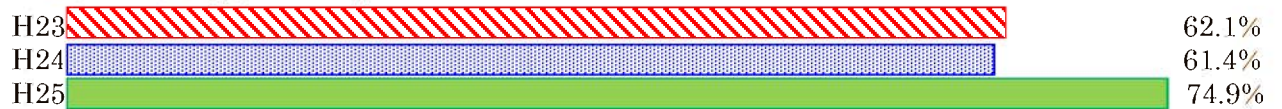
ごみ減量の取組状況について（有効回答者数 2,250、複数回答可）

問2 あなたは、ごみを減らすために日頃から何か取り組んでいますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

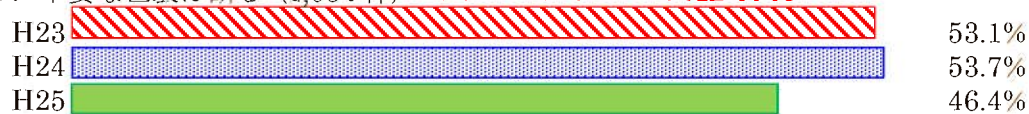
1. 物を大切に使い続ける(1,021件) **リユース (Reuse) 再使用**



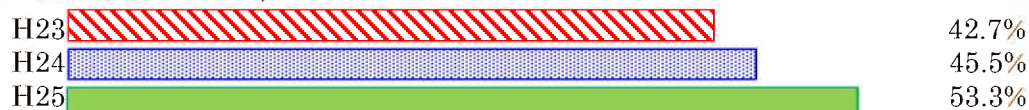
2. 資源とごみの分別(1,699件) **リサイクル (Recycle) 再生利用**



3. 不要な包装は断る (1,054件) **リデュース (Reduce) 発生抑制**



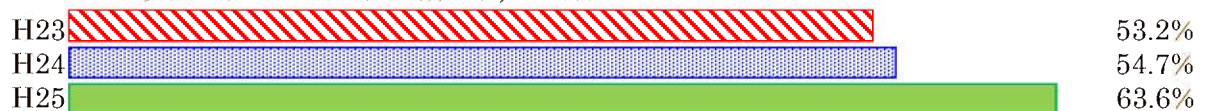
4. 生ごみの水切り(1,210件) **リデュース (Reduce) 発生抑制**



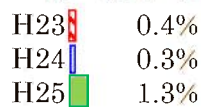
5. ばら売りを選び必要なものだけ買う(552件) **リデュース (Reduce) 発生抑制**



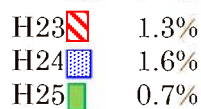
6. マイバッグを使ってレジ袋は断る(1,446件) **リデュース (Reduce) 発生抑制**



7. 特に取り組んでいない(31件)



8. その他(17件)



「資源とごみの分別」や「生ごみの水切り」、「マイバッグを使ってレジ袋は断る」の割合がこれまでに比べ大幅に増加している。一方、「物を大切に使い続ける」や「不要な包装は断る」、「ばら売りを選び必要なものだけ買う」の割合が減少している。

その他の意見（食べ残しを減らす、冷蔵庫の在庫を把握する 等）

マイバッグの所有数について（有効回答者数 2,317、平成 25 年度より実施）

問3 ご自宅にマイバッグを何枚お持ちですか？

いずれか一つに○をしてください。

ご自宅にマイバッグを何枚お持ちですか。



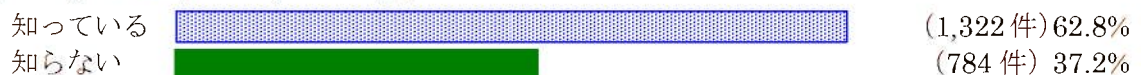
9割以上の区民がマイバッグを1枚以上持っている。また、複数枚マイバッグを所有している区民の割合も7割を超えている。

「かつしかルール」について（有効回答者数 2,106、平成 25 年度より実施）

問4 かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会では、「ごみを減らすためにこれだけは実践しましょう」という取り組みを「かつしかルール」として呼び掛けています。「かつしかルール」をご存じですか。

いずれか一つに○をしてください。

「かつしかルール」をご存じですか。



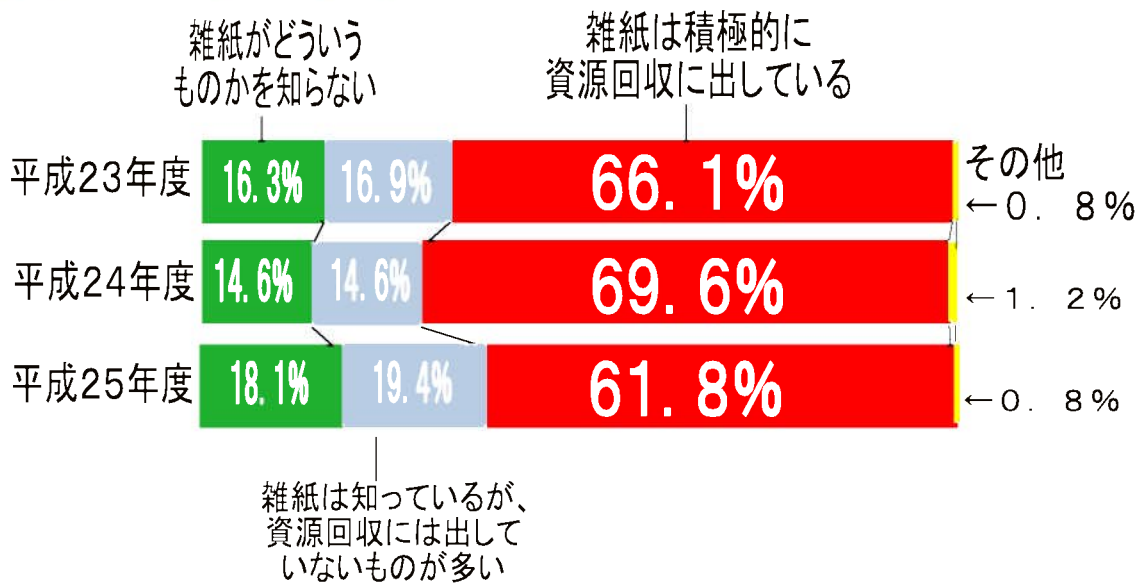
4割近くの区民が「かつしかルール」を知らない。

雑紙（ざつがみ）の認知・実践について（有効回答者数 2,300）

問5「かつしかルール」として、「雑紙（ざつがみ）の分別」を呼び掛けています。新聞・段ボール・雑誌・牛乳パックと同様に、リサイクルできる紙類である「雑紙（ざつがみ）」を資源回収に出していますか。いずれか1つに○をつけてください。

- 1. 雑紙（ざつがみ）がどういうものかを知らない (416 件) 18.1%
- 2. 雑紙（ざつがみ）は知っているが、資源回収に出していないものが多い (445 件) 19.4%
- 3. 雑紙（ざつがみ）は積極的に資源回収に出している。 (1,421 件) 61.8%
- 4. その他 (18 件) 0.8%

その他の意見 町会の集団回収に出している 等

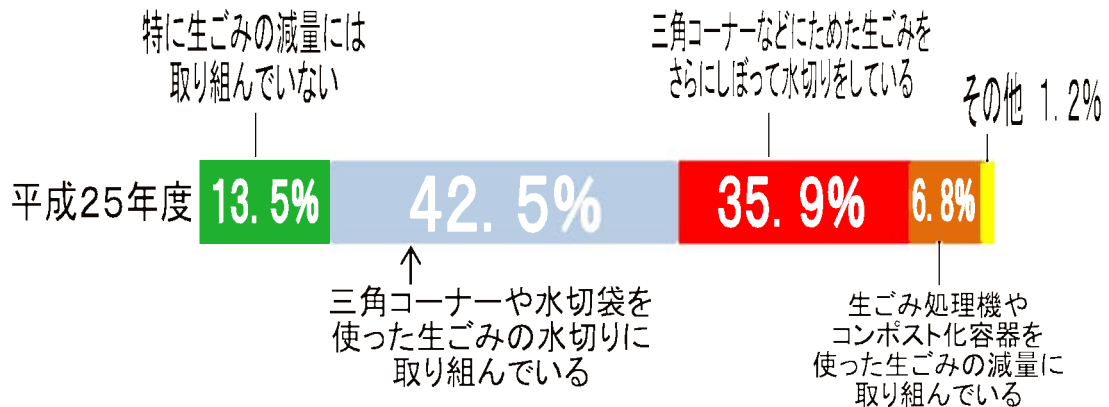


「雑紙（ざつがみ）を積極的に資源回収に出している」区民の割合は昨年より減少し、約6割となっている。また、「雑紙がどういうものか知らない」人の割合も増加している。

問6 「かつしかルール」として、「生ごみの減量」を呼び掛けています。日頃から生ごみの減量に取り組んでいますか。いずれか1つに○をつけてください。

【問6は平成25年度から実施】

1. 特に生ごみの減量には取り組んでいない (310 件) 13.5%
2. 三角コーナーや水切り袋を使った生ごみの水切りに取り組んでいる (972 件) 42.5%
3. 三角コーナーなどにためた生ごみをさらにしぼって水切りしている (823 件) 35.9%
4. 生ごみ処理機やコンポスト化容器を使った生ごみの減量に取り組んでいる (156 件) 6.8%
5. その他 (29 件) 1.2%
 その他の意見 ディスポーザーを利用している、生ごみを乾かしている、三角コーナーをキッチンに置かない、畑に持っていく、食べられる皮は料理する、袋に生ごみを入れて密封している、植木の肥料に使う 等



8割以上の区民が何らかの方法で生ごみの減量に取り組んでいる。しかし、簡単に取り組むことができ、水切りの効果の高い「三角コーナーにためた生ごみをさらにしぼって水切りをしている」割合が3割程度となっている。

生ごみのひとしぼりアンケート

家庭から出される生ごみの減量を実現するためには、各家庭での日々の取組が欠かせません。区は生ごみの減量器具「水切りダイエット」を使用したモニター調査を実施し、併せて意向調査も行っています。

【対象】葛飾清掃協力会・葛飾東清掃協力会の皆さん、かつしかエコライフプラザ実施講座の受講者、3R推進パートナー ほか58名

【調査結果】

Q1 水切りダイエットの使用感についてお聞きます。

①水切りダイエットなどの器具を使用した場合、生ごみの約1割の水分をしぼることができると言われていました。実際に使用した印象はいかがですか。

- 1 よく水切りができた 13
- 2 どちらかというと水切りができた 23
- 3 水切りの効果があまり実感できなかった 22

②器具の使いやすさはいかがですか？

- 1 良い 8
- 2 普通 34
- 3 悪い 17

Q2 生ごみのひとしぼりで効果があると思われることは何ですか？

次のア～キのうち該当するものに○をしてください。複数回答可

- ア ごみが軽くなった 32
- イ ごみの量が減った 21
- ウ 生ごみの臭いが少なくなった 11
- エ 小バエなどの虫が減った 3
- オ ごみ出しの際に、ごみ袋の汚水が気にならなくなった 28
- カ ごみの減量に関心を持った 46
- キ その他

Q3 日頃の生ごみの扱いについて、お答えください

①普段生ごみを溜めている場所はどこですか。

- 1 シンク 21
- 2 三角コーナー 29
- 3 ボウルなど 0
- 4 その他 (シンクにビニール袋を置いている)

②普段どのように生ごみのひとしぼりを行っていますか

- 1 三角コーナーで水切りをしている 21
- 2 新聞紙に水分を吸わせている 13
- 3 特に何もしていない 8
- 4 その他（ごみをすぐにビニールに入れることで水に吸わせないようにしている・上から押さえて水切りしている）

③ ①で溜めた生ごみを1日何回ごみ箱に入れていきます

- | | |
|-----------|----|
| 1 1回 | 23 |
| 2 2回 | 21 |
| 3 3回以上 | 10 |
| 4 2~3日に1回 | 6 |

④生ごみ処理機（コンポスト）を使用していますか

- 1 生ごみ処理機を使用している 1
- 2 コンポストを使用している 2
- 3 どちらも使用していない 55

Q4 生ごみのひとしぼりや減量について、アイデアやご意見などがありましたらご記入ください。

○生ごみ処理機やコンポストの使用の仕方を教えてほしいと思います。

○なるべく野菜は皮はむかずそのまま調理しております。新聞で水切りなどしていましたが今回の調査で水切りが臭いを消したり生ごみの量を減らすことによって少しでも環境が良くなるので頑張ります。

○野菜の皮などは水をすわせることなくチラシで作った紙箱につつんでごみ箱に捨てているのでシンクに流す生ごみはわずかなのだが、今までよりしっかり絞って捨てることにより少しでも減量することが出来てよかった。

○生ごみの中でも果物の皮（特にバナナ）は週2回の収集では夏場は臭い素になります。小さく切って出すのと大きいままではどちらが悪臭害虫発生の原因になりやすいのか等、基本を知って正しい方向に進められることが効果的と思われる。

○もう少し柔らかい材質にして押さえるようにした方がより効果的なのではないかと思いました。チラシにあったようにいらぬ食品を買わないように気をつけたいと思います。冷凍食品をやむなく捨てる時、必ず解凍して水気を切るようにします。

○柑橘類の皮、リンゴの皮等はちょっと干しています。ジャガイロ、玉葱の皮はぬらす前に別の袋に入れる

○コンポストのお値段がもっと安くなり、購入補助金をもっと多くして欲しい。

ベランダでも使えるといいですよネ。私のやり方は特に野菜を作るのに肥料無しでも育つのもってこいです。カラスにほじられない様に重い植木鉢を重さにして重りにしております。”

Q5 あなたは、モニター終了後も「生ごみのひとしぼり」を実施しますか？

ア 実施する 47

イ 実施しない 12

(理由)

○生ごみを絞ることにより、台所が生ごみ臭くなってしまったため

○水分が多い時、ざるに入れた状態で放置し時間がたって袋に入れ出している

○ひと絞りが必要な生ごみを分別して取扱い、今後更に水切りに努めていくことで効果が上がると考えています。

○思うように絞れなかった感が残った。続けようと思わなかった。引っぱり上げて絞るより強く押して絞り出す様に扱ってしまい、手が痛かった。この器具は使わないと思う。”

(アンケートからわかったこと)

- 器具そのものの使いやすさについては、比較的肯定的な見方が大勢を占めるものの、「手でしぼる」「水切りネットを使用する」など、他の方法の方が評価が高い。
- 60%の方が三角コーナーを利用しており、50%の方が一日2回以上三角コーナーからごみ箱に生ごみを捨てている。
- 生ごみ処理機もコンポストも利用している方は少ない

2 調査等の結果を踏まえた現状の分析

葛飾区のごみ減量目標値と実績からわかること(P3~P4参照)

- ・区民・事業者の取組により、家庭ごみ量、ごみと資源の総排出量とも減少傾向である
- ・家庭ごみは25年度の目標値を達成する見込みである。

燃やすごみの排出状況(ごみ性状調査)からわかること(P5参照)

- ・排出割合の高い生ごみを減らし、紙ごみやプラスチックをできるだけ資源へと分別徹底していくことで、より一層のごみ減量を実現できる。

各種調査からみる区民の意識(P6~P13参照)

- ・3つのRで最も大切なリデュース(発生抑制)の割合が若干増加したものの依然として、リサイクルの割合が大部分を占めている
- ・「かつしかルール」の認知度が6割程度にとどまっている
- ・「雑紙の分別」ができている区民が約6割、「生ごみの減量」においては三角コーナーや水切り袋の使用だけでなく、さらにもう一絞りしている割合が約4割にとどまっている
- ・「より簡易な水切り手法」「手軽にできて効果が実感できる手法」が受け入れられやすい

3 ごみ減量の取組に向けた課題

(1) 再生利用から発生抑制への意識転換

区民・事業者の取組により、家庭ごみ・事業系ごみは着実に減少し、資源量も増加しています。これより一層のごみ減量を実現するためには、今まで以上に多くの方が発生抑制に取り組んでいくことが不可欠です。

(2) 動機づけとなる情報の発信

ごみの減量は日々の生活に密接に結びついています。行動に結びつけていくためには、より具体的な手法について、啓発していくことが必要です。

「ごみ減量の日」の取組などを通じ、「食材の使い切り」「紙ごみが発生しない工夫」「プラスチック容器をなるべく使わない買い物」など、その日から取り組める事柄を啓発していくことが必要です。

そして、情報の発信方法についても、従来のチラシ・ホームページばかりでなく、ソーシャルネットワーク(インターネット上でコミュニティを形成し、ユーザー同士が様々な形でコミュニケーションできるサービス)やスマートホンのアプリなど、比較的若年層になじみのあるメディアを活用することで、取組のすそ野を広げていくことができます。

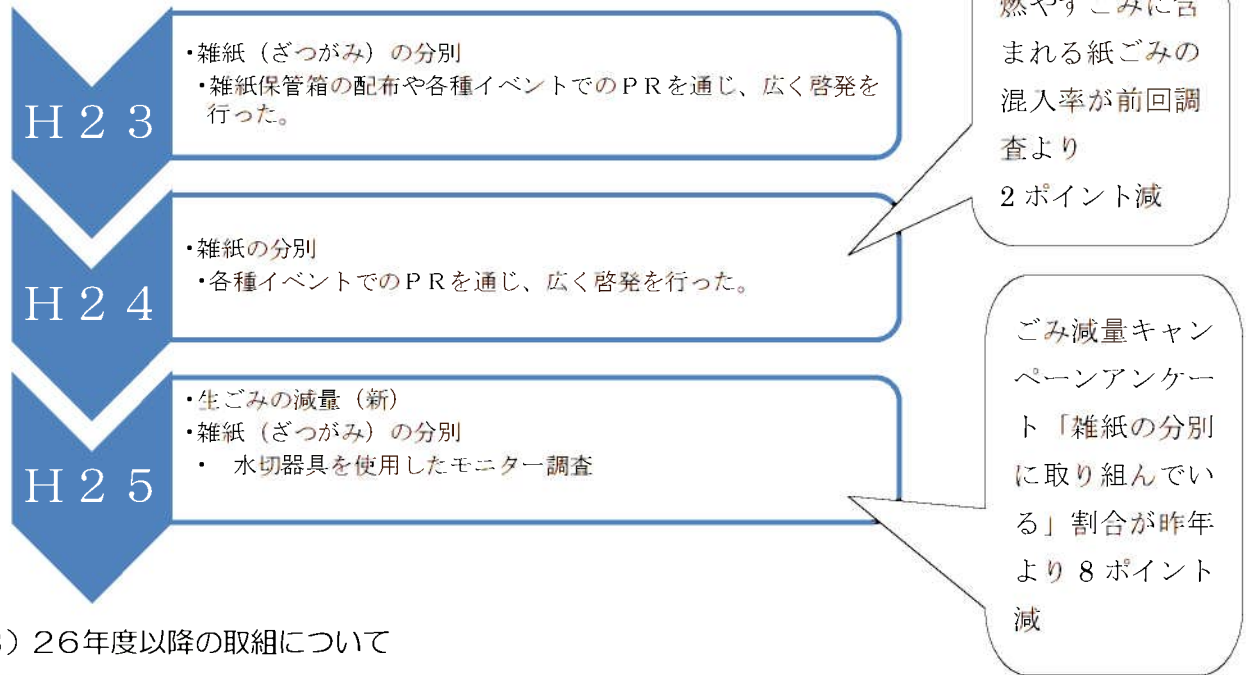
4 かつしかルールについて

(1) かつしかルールについて

本協議会では「葛飾でゴミを減量するためには、これだけを実践しましょう」という取組を「かつしかルール」と位置付け、区民・事業者に対し、広く実践を呼び掛けています。

取り上げるテーマについては、その時々課題にかんがみ、検討を行っています。

(2) これまでの取組



(3) 26年度以降の取組について

①あと90gごみ量を減らすためには

葛飾区一般廃棄物処理基本計画（第3次）では、平成32年までに区民1人1日あたりの家庭ごみ量を450gまで削減することを目標にしています。かつしかルールの設定にあたっては、より削減効果の高いものから優先的に取り組む必要があります。

取組年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
テーマ	雑紙	雑紙	生ゴミ	3つのルール（2に記載）						
取り組む人	家庭・事業所	家庭・事業所	主に家庭	家庭・事業所						
内容	分別の徹底	分別の徹底	水きり	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での分別徹底、生ゴミの減量 ・事業所での分別徹底、ペーパーレス化、業務形態見直し ・飲食店や食品販売店での提供形態見直し 						
ごみ量※	548g	547g	537g							
前年比ごみ量	-4g	-1g	-10g							
目標(450g)まで	98g	97g	87g							

※ごみ量・・・区民1人1日あたりのごみ量

②これからのかつしかルール（例）

みんなで取り組む
3つのかつしかルールで
ごみ減量！



-70g

生ごみの減量

537g

<家庭>

- ・水きり
- ・食べきり
- ・使いきり
- 買う前に意識を！
- 冷蔵庫の在庫管理
- 保存の技を身につける
- 献立の工夫
- 買い物メモ
- ・賞味期限切れは捨てる？
- ・最小限の調味料で料理
- ・生ごみ処理機、コンポスト

<飲食店>

- ・食べ残しゼロの店
- ・少量を頼みやすい雰囲気
- ・使いきりメニューをPR
- ・お持ち帰り

<食品販売店>

- ・ばら売り
(ばらで買ってもお得感)
- ・特売とリンクした月間(週間)
使いきりメニューの提案



-10g

雑紙の分別徹底

<家庭>

- ・雑紙分別を習慣に
 - ・ガムテープで束ねない
- <事業所>
- ・ペーパーレス化
 - ・印刷物に「リサイクルできる」ことを表示
 - ・両面コピーや裏面利用を推奨
 - ・雑紙としてリサイクルしやすい形態のものをパッケージ等に採用し、粘着物を多用しない。
 - ・添付の説明書をパッケージや製品に印刷する。
 - ・過剰な紙包装をなくす



450gに！減量成功♪

-10g

**容器包装(プラマーク)の
リデュースと分別徹底**

<家庭>

- ・詰め替え用を買う
- ・お弁当や水筒を持っていく
- ・レジ袋は断る
- ・分別の徹底
- ・トレイやカップは、食器洗いの残り水を活用してきれいにしてから「プラマークの日」へ

<事業所>

- ・過剰な包装をなくす
- ・パッケージに減容ボトル(製造時に使用するプラスチック量を減らしたもの)を採用する
- ・備品にも詰め替え用

<食品販売店>

- ・マイバックが使いやすい環境整備
- ・過剰な包装(二重ラップ)をなくす
- ・お弁当パッケージではなく、ばら売りや量り売りで容器包装を減らす

26年度のルールについて、各委員に個別に意見を述べていただいた

買い物を工夫することで、食べ残しがなくなるようになります
買う前の意識をすることで、食べ残しゼロ（リデュース）になります
生ごみのバイオ分解装置を普及することで（生ごみを）削減することになります
雑紙を資源として認識し回収することで、燃やすごみを減量し最終的に地球環境を守ることになります
紙袋を見直しすることで、リサイクルの促進になります
雑紙を分別することで地球の資源を守ることになります
報告書をPCタブレットにすることで、紙ごみの減量になります
ペーパーレス化することで、ペーパー利用の減少になります
ペーパーレス化することで、不要な紙を減少させられるようになります

その後の議論

- ◎普段買い物をしていると過剰包装が気になることが多い。
 - ◎お弁当を買った際、ごはん入りのものは、家にご飯があるため、残してしまい、反省することがままある。
 - ◎弁当を買うと、おかずがいっぱいはいっており、食べ切れないことがよくある
 - ◎東京オリンピックが開催されると景気が上向き、ごみ量が増えることが予想される。
- その際、平成 35 年度までの減量計画を見直さざるを得ない。長期的課題として考える必要があるのではないか。

リサイクル清掃課長より、上記意見踏まえながら、基本的には前年通り「雑紙の分別」と「生ごみの減量」に取り組むことで了承された。なお、その後黒崎会長より「雑紙の分別はペーパーレス化も加味して」との意見あり。

5 ごみ減量キャンペーンについて

ごみ減量キャンペーンも10年を経過している。平成25年度は、区内16会場（4会場雨天のため中止）で実施し、2,324名の方にアンケートにお答えいただき、マイバッグを配布した。その際に、区民の方より「マイバッグはたくさん持っている」「マイバッグでないものを配った方が良い」「マイバッグが小さくて使いづらい」など様々なご意見をいただいた。

目的（平成15年）

資源循環型社会を構築していくには、区民、事業者、区の3者がそれぞれの役割を認識し主体的に行うことが重要である。そのため、日常生活の中で手軽に行うことが可能な、ごみの発生抑制や資源の有効活用として、身近なレジ袋削減に向け、区民、事業者、区の3者が協働して区民に意識啓発と行う。

今後の方向性

燃やすごみのうち排出割合の大きいプラスチック製容器包装、紙類、生ごみの減量を最大の目的としつつ、商店街及び地域の活性化につながる協働を根底においたごみ減量キャンペーンの実施。

他区の状況

大部分の区では、イベントに参加した方に対して、マイバッグ等のごみ減量啓発グッズを配布している。しかし、ごみ減量やリサイクルの事業に関して、商店街や地域と協働している事例は少ない。

地域と協働してごみ減量を進めていることは葛飾区の強み

⇒強みを生かしたキャンペーンの展開が不可欠

今後、より質の高いキャンペーンとしていくために

例1 配布物を工夫する

- ・25年度ごみ減量キャンペーンアンケート結果では、約9割の区民が1枚以上マイバッグを所有しており、複数枚持っている割合は7割を超えている。これ以上マイバッグの配布を続ける必要があるのか。
- ・マイバッグを作成する場合、現在配布しているものはペットボトル再生素材のものであるが、価格が不安定であり、必要数の確保が難しい状況となってきた。

例2 効果が見えやすい仕組みをつくる

- ・これまでのごみ減量キャンペーンでは、どれだけの区民が配布したマイバッグを使用しているのか把握するのが難しい。
- ・キャンペーンを実施することによってどれだけのレジ袋が削減したのかが目に見える形で現れない。

例3 より多くの主体がかかわるキャンペーンにする

- ・それぞれの特性をお互い理解・尊重し、共通の目的をもって、現在よりも一層質の高い地域社会とするため活動していく必要がある

6 ごみ減量の日取組について(案)

毎月5日の「ごみ減量の日」には、各団体における活動を推進し、葛飾区全域で活動を行うことにより効果的なPRを行っていきます。

※平成26年4月から9月までの取組内容（区民向け）の提案（例）

生ごみの水切りを進める提案	・生ごみは1度しぼってから、ごみ箱に入れましょう
食材の使い切りを進める提案	・冷蔵庫の在庫を確認してから買い物に出かけましょう
雑紙の分別や紙ごみの減量を呼びかける提案	・雑紙を分別しやすいよう、保管場所を確保しましょう
容器包装（プラマーク）のリデュースを呼び掛ける提案	・トレイやカップは、食器洗いの残り水を活用して、きれいにしてから「プラマーク」の日に出しましょう

※平成26年4月から9月までの取組内容（小売店向け）の提案（例）

食材の食べ切りを勧める提案	・お客様の食べ残しを減らすために、少量の商品を用意しましょう
雑紙の分別や紙ごみの減量を呼びかける提案	・お客様の紙ごみを減らすために、過剰な包装を見直しましょう
容器包装（プラマーク）のリデュースを呼び掛ける提案	・お客様に、より簡易な包装の商品を勧めましょう

※平成26年4月から9月までの取組内容（事業所向け）の提案（例）

雑紙の分別や紙ごみの減量を呼びかける提案	・職場の紙ごみを減らすために、ペーパーレス化を検討しましょう
容器包装（プラマーク）のリデュースを呼び掛ける提案	・商品のパッケージの減量化を検討しましょう

◎過剰包装については、いろいろ努力されているところなので具体的な方策はすぐには思いつかない。

◎ペーパーレス化は、取組の必要性が叫ばれてからもう20年くらいたつ。ある程度浸透しているもので、これ以上進めていくのはパワーのいることなのではないか。方策としてはPC化ということなのだが、企業によって環境が異なるので、画一的な対応は難しい。簡単なところでは、資料を無くし、タブレットで代替するといったことくらいなのでは。

◎取組の内容はともかくとして、それをどう伝えていくのかというところの議論が欠けているのではないか。自宅の集積所を見ても、一切分別されていないごみ袋を多く見かける。これが一般の区民のレベルなのではないか。我々は現実と次元の違うところで議論をしているのではないか。区民に対しモラルとコストを中心に訴えかけていくのが必要。

マイバッグは個人の好みに応じた物を使えるようにするのか、もしくは家庭

で埋もれているマイバッグを再利用する仕組みが作れたら良いのでは。
配布に至る過程のハードルを上げるか、いつでも使いやすくする仕組みをつくるのか、どちらかになると考える。

◎家庭での親子の対話を通じて啓発が進むという面もある。子どもが学んだことを親に訴えかけることで、親の意識が変革すると思う。

◎買い物袋のレンタル

◎レジ袋の削減は啓発だけでなく、レジ袋有料化など根本的な手立てをとらないと解決しない。

◎今の時代はペーパーレスではなくネットレス。(漏えいを防止するために)社外に出す資料は、紙媒体のものを郵送することが一般的になっている。そこでペーパーレスを謳うよりは、使用済みの紙の資料をなるべくリサイクルにまわすことを呼び掛けた方が、現実的ではないか。

◎過剰包装はごみを買うようなもの。でも消費者には個包装が好まれる。

事務局より、上記の議論を鑑み

小売店 過剰な包装はやめる

事業者 紙ごみを減らす

という方向で、事務局で調整することで了承された。

リサイクル清掃課長より「情報発信については、今後新しい方法につき、事務局でリサーチする」と発言。

その他

委員の意見

◎景気が上向き→ごみも減らす というのはドラスティックな手立てが必要。
世界的なごみ減量事例を収集し、提案なり情報提供していただけないか。

25年度の取組（報告）

（1）ごみ減量月間の取組結果について

①街頭キャンペーンの実施

身近にごみの発生抑制に取り組むことができるマイバッグ持参キャンペーンを、16会場（下記参照、4会場雨天のため中止）にて実施しました。会場ではごみの減量に関するアンケートの実施と協力いただいた方にマイバッグ(買い物袋)の配布を行い、併せて、今年度の「かつしかルール」である生ごみの減量についてのちらしでPRを行い、ごみの減量を呼びかけました。

*アンケート協力者数 2,324名

*実施地区・日時・会場

地区	日時	会場
堀切	9月18日(水) 午後4時～	堀切菖蒲園駅前(堀切商店連合会)
金町	9月28日(土) 午後3時～	金町しょうぶ通り商店会
亀有	9月29日(日) 午後4時～	イトーヨーカドー亀有駅前店
柴又	10月 5日(土) 午後4時～	旬鮮食品館カズン柴又店脇 (柴又親商会・柴又中央会) (雨天のため中止)
金町	10月 5日(土) 午後5時～	末広商店会 (雨天のため後日自主実施)
四つ木	10月 6日(日)午後1時30分～	まいろーど四つ木商店街
金町	10月 6日(日) 午後3時～	金町とうきゅう
鎌倉	10月12日(土) 午前11時～	千代田通商店会
新小岩	10月12日(土) 午後3時～	みのり商店会
新小岩	10月13日(日) 午後2時～	西友新小岩店
立石	10月25日(金) 午後3時～	立石仲見世商店街
亀有	10月26日(土) 午後2時～	かめありリリオパーク入口 (亀有地区町会自治会連合会・ 亀有地区商店街協議会) (雨天のため中止)
お花茶屋	10月26日(土) 午後3時～	お花茶屋商店街 (雨天のため中止)
高砂	10月27日(日) 正午～	区立高砂北公園 (高砂商店会・高砂エビス通り商店会・ 高砂南町商友会)
青戸	10月27日(日) 午後2時～	青戸銀座商栄会
水元	11月17日(日) 午前10時～	ごみ減量・清掃フェア(葛飾清掃工場)

②産業フェアへの参加

産業フェアに参加してブースにて生ごみ減量カードゲームを行い、様々な生ごみ減量方法をゲーム形式で紹介しました。

*期 間 10月18日(金)～20日(日)(3日間)

*参加人員 約1,646名

③ごみ減量キャンペーンに係る物品の提供協力

ごみ減量月間の実施にあたり、次の団体・事業者より物品の提供をいただきました。

団体・事業者	提供物品	配布先
かつしか異業種交流会	マイバック	産業フェア参加者
株式会社タカラトミー	おもちゃ	産業フェア参加者
森永乳業株式会社	パック飲料	街頭キャンペーン参加者(みのり商店会)
ミヨシ油脂株式会社	ノート	産業フェア参加者
レンゴー株式会社	水切りネット	産業フェア参加者

④ごみ減量月間協力団体・事業者

団体	内容
葛飾区自治町会連合会	キャンペーンの従事
葛飾清掃協力会	キャンペーンの従事
葛飾東清掃協力会	キャンペーンの従事
葛飾区消費者団体連合会	キャンペーンの従事
葛飾区商店街連合会	街頭キャンペーン会場の提供 ポスター掲示・街頭放送、ちらしによるPR
イトーヨーカドー亀有駅前店	街頭キャンペーン会場の提供 ポスター掲示・店内放送
金町とうきゅう	
西友新小岩店	
かつしかエフエム	PR放送

以上の団体以外の皆さんからも、ポスターの掲示や店頭放送等のご協力をいただきました。

また、日本大学学生や3R推進パートナーの皆さんに各会場においてアンケート収集やバッグの配布ご協力をいただきました。

⑤ごみ減量キャンペーンにおける区の実績結果

*「広報かつしか」9月15日号やホームページを通じたPR

*PRポスターの作成、掲示、配布

*キャンペーン物品の用意、職員の配置、その他各種準備・調整

(2) 「かつしかルール」の取組状況について

平成25年度は、従来の「雑紙を徹底して分別し、資源にする」に加え、「生ごみの減量」を個別ルールとした。

『雑紙（ざつがみ）を徹底して分別し、資源にする』
『生ごみの減量に取り組む』

①平成25年度の取り組み状況

(ア) 広報紙での周知（5月5日号・9月15日号）

広報紙において、生ごみの減量の必要性や水切りの行い方などのPRを行った。

(イ) 町会回覧での周知（10月実施、平成26年3月予定）

自治町会連合会の町会回覧向けに、生ごみ減量の必要性について説明をしたちらしを作成し回覧を行った。

(ウ) 小売店・事業所などでの周知（11月実施、平成26年3月予定）

葛飾区商店街連合会、東京商工会議所葛飾支部で紙類のリサイクルやマイバッグ利用促進についての啓発ちらしを会員事業者に配布した

(エ) ごみ減量キャンペーンでの周知（9～11月実施）

ごみ減量キャンペーンでアンケートに雑紙に対する意識調査の項目を入れた。また、マイバッグの配布と併せ生ごみの水切りに関するちらしを作成し配布を行った。

(オ) 産業フェアでの周知（10月18日・19・20日実施）

産業フェアの推進協議会出展ブースにおいて、来場した区民に、生ごみの水切りの手法を学べるカードゲームを行い、終了後解説をする形で啓発を行った。

(カ) 区のホームページでの周知

葛飾区のホームページに「かつしかルール」のページを作成し、その中で、雑紙の分別方法や出し方の周知を行った。特に、分別を迷うような紙類については一覧を作成し、掲示を行った。

(キ) 生ごみのひとしぼりアンケートの実施

生ごみの減量器具「水切りダイエット」を使用したモニター調査を実施し、併せて意向調査を行った。

(3)「ごみ減量の日」の取組について

かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会では、毎月5日を「ごみ減量の日」として区民、事業者それぞれの取り組むべき目標を提示し、呼びかけることにより、ごみの減量に対する活動の全区的な広がりを図っている。

①平成25年度に呼びかけた取組内容

＊平成25年4月から9月までの取組内容

区 民	生ごみの重さを減らす工夫をして排出しましょう。
事業者（小売業）	お客様が分別しやすいように、販売方法を見直しましょう。
事業者（事業所）	職場での分別を通じて、社員一人ひとりの分別意識を高めていきましょう。

＊平成25年10月から平成26年3月までの取り組み内容

区 民	生ごみの水切りを徹底しましょう。
事業者（小売業）	過剰な包装にならないよう、レジ袋や包み紙が必要か、お客様に一声かけるように心掛けましょう。
事業者（事業所）	ごみの排出量を減らす工夫をしましょう。

②平成25年度「ごみ減量の日」のPRについて

(ア) 小売店向けPR（4月、11月）

葛飾区商店街連合会で、ちらしの裏面を店内に掲示できるポスター形式とし、それを掲示することにより、区民への小売店の取組の周知につながるものを年2回作成し、商店街の各店舗に配布してPRを行った。

(イ) 事業所向けPR（5月、11月）

東京商工会議所葛飾支部で、ちらしの裏面を事業所に掲示できるポスター形式のちらしを作成し、それを掲示することで、事業所内で取組を周知できるものを年2回会員にダイレクトメールで配布してPRを行った。

(ウ) ごみ減量キャンペーンでのPR

10月の「ごみ減量月間」に行うごみ減量キャンペーン時に、取組を呼びかける内容を含めたちらしを作成し、配布を行った。

(エ) その他

「ごみ減量の日」を広く普及する目的で、広報かつしかやホームページ、かつしかエフエム等を利用したPRを行った。

また、毎月1日から5日までは区役所入口など3箇所へのぼり旗を掲げ、来庁者に対してPRを行った。

(4) マイバッグ利用促進の取組

平成25年度は昨年度に引き続き、お花茶屋商店街と千代田通商店会において、マイバッグを利用することでポイントを貯め、一定のポイントが貯まったら景品（古紙をリサイクルしたティッシュペーパー）を配布する取組を実施している。

【お花茶屋商店街】

- ・実施時期 平成25年10月12日（土）～平成26年3月31日（月）
- ・参加店舗 約50店舗
- ・内 容 レジ袋を断った店舗でスタンプを押印。30ポイントスタンプが貯まるとりー（Ree）ちゃんペーパー（ティッシュ）と交換
- ・実施状況 昨年度同様、ポイント数を20ポイントに設定して実施。景品交換日をイベントと合わせ、2日設定してマイバッグの利用を促進していく。
- ・主な聞き取り内容
 - ・昨年に比べ認知度は高まったため、スタンプカードを持ってくる客が多い
 - ・制度の仕組みについての周知が不足している。今後店内の掲示を増やすなどの工夫が必要。

【千代田通商店会】

- ・実施時期 平成25年10月12日（土）～平成26年3月31日（月）
- ・参加店舗 約30店舗
- ・内 容 レジ袋を断った店舗でスタンプを押印。30ポイントスタンプが貯まるとりー（Ree）ちゃんペーパー（ティッシュ）と交換
- ・実施状況 10月12日のごみ減量キャンペーンよりポイントカードの配布を開始。
1枚のスタンプカードに5店舗以上のスタンプがないと景品交換不可とした。
- ・主な聞き取り内容
 - ・マイバッグを敬遠するお客様もいるので、レジ袋は用意せざるを得ない
 - ・近隣でレジ袋を有料化している店があり、そこからお客が流れてくる。
レジ袋を使う、使わないは本人の意向もあるので、どちらでも良いような仕組みの方が現実的だ

(5) エコライフプラザでの参加企業活動実績について

かつしかエコライフプラザにおいて、3Rや環境の啓発を目的とし、かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会に参加いただいている事業者にご子供向けを中心としたイベントを実施していただいた。

◆平成25年度推進協議会参加事業者を実施及び実施予定いただいているイベント

実施事業者	実施日	イベント名	実施状況
森永乳業株式会社（東京工場）	8/18	使用済み牛乳パックによる紙すきはがき作り教室	牛乳パックのリサイクルについての説明後、水に溶かした使用済みの牛乳パックを紙すきして、はがきを作る。 （小学生と保護者対象）
株式会社杉野 ゴム化学工業所	3/15 （予定）	リサイクルゴム工作	リサイクルゴムを型抜きし、好きな形の飾り付けをしたマイ消しゴムを作る。 （小学生以下対象）